

TOPICS

高齢者見守り・自動検針システムの開発を支援

—水道の使用状況から高齢者を見守り—

電子情報部 米沢裕司 (よねざわ ゆうじ)

yoneyuji@irii.jp

専門：ソフトウェア、信号処理

一言：新技術・新製品の開発をぜひ一緒に。



我が国では高齢化が進行しており、特に一人暮らしの高齢者は600万人にまで増加しています。こうした傾向は、いわゆる孤立死等の社会問題を招いており、一人暮らしの高齢者に対する支援が求められています。

そこで、井筒管材(株)と(株)ジェイ・エス・エス(いずれも金沢市)は共同で、水道の使用状況から高齢者の見守りを行うシステムの開発を行い、工業試験場はソフトウェア開発を支援しました。

本システムは、高齢者宅の水道メータに電池で長期間動作可能な無線送信機を取り付け、この無線送信機に水道メータから水道使用量を取得して送信する機能を設

け、宅内に設置した無線受信機を経由してインターネット上のサーバに使用状況を送信します。

親族等がパソコンからサーバにアクセスした際には図のような画面を表示し、水道使用状況が一目でわかるようにしました。また、水道を長時間使用しなかった場合などには、高齢者に何らかの異常が発生した疑いがあることを親族等にメールで通知する機能を開発し、日々の生活の様子を見守ることができるようになりました。さらに、水道料金の算定に必要なデータを水道事業者に送信する機能も開発し、検針員が現地を訪れなくても検針できるようになりました。

本システムは、現在実証試験を進めており、システムの完成度と信頼性を高めて、製品化する予定です。



□ 水道使用状況の表示例